

第7回 ネパール野球交流活動

活動報告書

2002年8月28日～9月18日

プール学院大学 異文化間協働センター

ネパール野球交流活動グループ

活動の始まり

プール学院大学では、1996年から海外研修プログラムの一環として、ネパールのボカラ市にあるセカンダリースクール（小・中学校）で、日本語を紹介するという研修旅行が毎年1回実施されています。

99年3月に実施されたその研修旅行に、当時野球部員であったメンバーが参加し、ネパール研修中もキャッチボールがしたいと思い、ゴム製のボールを鞆の中に入れていきました。そして、カトマンズの街頭で野球部のメンバーと共にキャッチボールをして遊んでいると、歩いている数人が立ち止まり、その姿をもの珍しそうに見ていたのです。

それは日本語紹介を行っているネパール第2の都市ボカラ市でも同じことでした。そこから、ネパールには野球がないということがわかりました。

ある日、研修旅行の発案者でもあり、引率者としても同行していた当大学の松田浩志教授から、ネパールに野球を広めないかとの誘いがありました。それなら是非引き受けたいと、帰国後知り合いに呼びかけたところ、たくさんの方々が協力して下さり、この活動が始まりました。

そして、ネパールのNGO団体であるESODEC（ネパール社会教育センター）の協力のもと、1校目の学校アマ・シンセカンダリースクールとの野球紹介活動が1999年の9月から始まりました。

現在、私たちは年に2回（春と夏）ネパールのボカラ市にある4校のセカンダリースクールの生徒たちと野球の紹介・交流活動を行っております。また、2002年5月から園田健弥（プール学院大学卒業生）が現地に滞在して活動を続けており、現在も活躍中です。

皆様から温かいご協力を頂きまして、誠にありがとうございます。

この度、第7回目のネパール野球交流活動を無事終了してまいりましたので、活動報告をさせていただきます。

期 間 : 2002年8月28日 ~ 2002年9月18日

場 所 : ネパール、ポカラ市、アマ・シンセカンダリースクール

参加者 : 小林洋平 (プール学院大学 学部生) 3回目
山本亜矢子 (プール学院大学 学部生) 3回目
佐原啓太 (プール学院大学 学部生) 4回目
三上真里奈 (プール学院大学 学部生) 3回目
巖一季 (プール学院大学 学部生) 3回目
三浦昌広 (花園大学 学部生) 2回目
三上大輔 (プール学院大学 学部生) 2回目
稲富智佳子 (関西大学 学部生) 初参加
新宅絵美子 (関西大学 学部生) 初参加
杉谷有啓 (プール学院大学 学部生) 初参加
谷昌樹 (同志社大学 学部生) 初参加
桑井仰 (関西大学 学部生) 初参加
室家健吾 (関西大学 学部生) 初参加
園田健弥 (プール学院大学卒業生 現地派遣員)



全体の報告、感想

ヒマラヤの麓、アマ・シンセカンダリースクールのグラウンドへ半年ぶりに足を踏み入れました。今回からこれまでの交流校アマ・シンセカンダリースクール（以下アマ・シン）、カリカセカンダリースクール（以下カリカ）、シリ・シッダセカンダリースクール（以下シリ・シッダ）に加え、新たにバルバトラセカンダリースクール（以下バルバトラ）が増え、4校で約40名の生徒と野球活動を行いました。雨は予想していたほど降らず、1日の休みもなしで活動を行ったので、野球を思う存分楽しむことが出来ました。また、「アマ・シンのグラウンドだけで野球をしても野球はネパールに浸透しない。」という生徒たちと園田さんの意見から、1日だけではありましたが、今回初めてバルバトラのグラウンドで野球活動を行いました。

そして、最初に行った私たちと生徒たちの試合で、私たちから見て生徒たちは全体的に送球が劣っていると感じました。送球ミスが少なくなれば、試合もスムーズに進行し、上手く送球して、打者をアウトにとることができ、もっと野球を好きになるのではないかと私たち考え、今回の活動は主にボール回しなどの基本的な練習を多くとりいれました。雨の日はルール説明や状況判断の勉強、私たちが日本で行っている事前研修のビデオや高校野球のビデオなどを見ました。生徒たちはビデオの中で募金活動をしている私たちの姿を見て、大変驚いていました。中には嬉しくて泣いている生徒もいました。このことで野球に対する考え方や取り組み方が変化したのではないかと思います。

また、協力者の方々から頂いた活動資金を使って、生徒たちとスパイクを買いに行きました。家に運動靴がなく、サンダルで野球をしている生徒にそのスパイクを練習の時貸し出しています。

そして、今回の活動で感動的なことが2つありました。1つ目はゴミ拾い。ネパールではゴミをその場に捨ててしまう人が多いようで、グラウンドにはゴミがたくさん落ちていました。普段野球でお世話になっているグラウンドが汚れていることは望ましくありません。生徒たちがまだ集まっていない練習前、私たちはグラウンドに落ちていたゴミや石を拾いました。やがて生徒たちも集まりだし、私たちがゴミを拾っている光景を見て、一緒に手伝いしました。それから、生徒たちは自主的にゴミや石、時には牛の糞を拾って、グラウンドは綺麗に使用して当然という考えに変化していきました。

2つ目はベース作り。ネパールでは野球が知られていなので、野球道具を全て揃えるということは限りなく不可能に近いです。現在、生徒たちは日本の協力者の方々から寄付していただいたものを使用していますが、私たちや日本の協力者の方々がいなくなると、生徒たちはどのように野球を続けていくのでしょうか？そこで、私たちは自分たちで作れる野球道具はないだろうかと考え、生徒たちと一緒にベースを作ることにしました。私たちは出発前の事前研修で、ネパールにある材料で作れるベースを一生懸命考え、試作しました。そして、生徒たちに「ベースを雨の日に作るので、必要なものを用意してほしい」と

伝えました。雨もなかなか降らず活動が順調に進んでいったその時に事件が起きました。3人の生徒が1つずつ家でベースを作ってきたのです。その生徒たちが作ってきたベースは私たちが考えていたベースよりもはるかに素晴らしく立派なものでした。このことから生徒たちの野球に対する情熱がひしひしと伝わってきました。

最後に行われたリーグ戦でも白熱した試合が繰り広げられました。ボール回し練習の成果も大いに見られました。アマ・シンは参加人数が少なかったものの、野球に対する気配り、情熱が素晴らしく、その上5人という少人数で優勝を果たすことが出来ました。カリカは野球部みたいで、私たちから話し掛けるのも恐々しいぐらいでした。また、チームがまとまっていて、勝利への執着心が見られました。シリ・シッダも元気いっぱい、打倒カリカを目標にチームが一丸となり、燃えていました。バルバトラは野球の楽しさを満喫して、早く上達することを目指していました。

試合でも練習中でも生徒同士で教えあったり、声を掛けあったりすることはもう当たり前前の世界で、生徒たちが頼もしく見えるようになってきました。進んでノッカーを行うなど、野球に対して自立していく光景も数多く見られるようになりました。生徒の野球に対する情熱が伝わってきて、私たちは生徒たちの言動に何度も感動させられ、今回の活動も無事終了することが出来ました。

野球活動を行った14日間は大変充実した日々を送ることが出来ました。毎日、練習後にミーティングを行い、練習の反省を1人ずつ意見し、その反省を踏まえた上で、次は何の練習を行うかを話し合いました。今回の活動は私たちも生徒たちも「ネパール野球」を見つめなおす良い機会になったのではないかと思います。言葉や文化が違ってても野球というスポーツを通して、コミュニケーションをはかることは改めて素晴らしいと感じました。そして、私たちはもちろん、生徒たちにも「ネパールに野球を広めたい。」という気持ちが強く表れ、第1回の活動時から目指してきた「異文化間協働」が確実に芽生えてきています。これからの生徒たちの飛躍がとても楽しみです。

今回ブール学院大学の研修旅行として現地に行ったため、野球以外の活動も行いました。カトマンズでは、ホームステイ体験があり、ネパールの一般的な家庭でホストファミリーとともに、1つ屋根の下で生活する機会がありました。そのほか、やさしさ日本語学校や日本大使館、ラリット福祉小学校、ポカラではチベット僧院にも訪問いたしました。

ネパールの人々に多く触れ、ネパール文化を肌で感じる事ができ、貴重な体験となりました。

スケジュール

・事前研修

出発前に 10 回程度の事前研修を行い、野球練習・応急処置・ネパールの文化（ネパール語、歴史、社会、経済、宗教など）についての勉強会を行いました。

また、プール学院大学での学内募金や大阪駅周辺での街頭募金も行いました。

・現地でのスケジュール

日付	午前	午後
8月 28 日		カトマンズ着
29 日	カトマンズ大学訪問	ホームステイ
30 日	ボカラへ移動	
31 日	ボカラ観光	チベット僧院訪問
9月 1 日	オープニングセレモニー	野球練習開始 ・ノック ・フリーバッティング ・ランニングゲーム
2 日	試合 ラリグラス VS ネパールチーム (5:6)	
3 日	・ボール回し ・シートノック	フリー
4 日	雨のため、教室でルール勉強会 各ポジションの動きの説明 (中継、カバーなど)	・ボール回し (全員) ・フリーバッティング (アマシン・カリカ) ・素振り・フリーバッティング (シリシッダ・バルバトラ)
5 日	雨のため、教室でビデオ鑑賞 (高校野球、募金活動、ビデオレター)	ネパールダンス
6 日	・ボール回し (タイムを計る) ・ランニングゲーム	・生徒とスパイクを買いに行く ・試合 (日本人と生徒を混ぜて)
7 日	試合 ラリグラス VS ネパールチーム (8:9)	ネパールダンス
8 日	・ボール回し ・ポジション別ノック	実践形式の練習
9 日	実践形式の練習	ネパールダンス
10 日	第 2 回 NEPAL BASEBALL CHAMPION CUP スタート ボカライエティーズ VS カリカサムライズ (12:1)	シリシッダラムローズ VS バルバトラ黒王 (9:3)
11 日	・カリカサムライズ VS バルバトラ黒王 (17:1) ・ボカライエティーズ VS シリシッダラムローズ (4:1)	ネパールダンス

12日	ボカライエティーズ VS パルパトラ黒王 (5:2)	カリカサムライズ VS シリシッグラムローズ (4:3)
13日	ラリグラス VS ネパールチーム (2:0)	・小学校訪問 ・ネパールダンス
14日	日本語交流グループの終了式	・生徒とパーティー ・ラリグラス VS ネパールチーム (前日の続き 7:0) ・クロージングセレモニー
15日	カトマンズへ移動	
16日	全交通機関ストライキのため、ホテルで待機	
17日	やさしさ日本語学校訪問	・フリット福祉小学校訪問 ・お別れパーティー
18日	帰国	

*ラリグラス=日本チーム

ボカライエティーズ=アマ・シン

カリカサムライズ=カリカ

シリシッグラムローズ=シリ・シッダ

パルパトラ黒王=パルパトラ

- ・毎日の練習開始前には全員でウォーミングアップ（ランニング、準備体操、キャッチボール）を行いました。
- ・練習後にはクールダウンを行いました。

・1日のスケジュール

時間	内容
6:00	朝食
6:30	グラウンドへ出発
7:00~8:30	練習
9:30~10:30	ミーティング
10:30~16:30	フリー
16:30	グラウンドへ出発
17:00~18:30	練習
19:00~20:00	ミーティング
21:00	門限

* ミーティングでは、練習の感想や反省を全員が言い、その内容を踏まえた上で、次の練習内容を決めました。

・事後研修

学内用報告ポスター作成、報告書作成、報告ビデオ作成

(報告者：山本亜矢子)

第2回 NEPAL BASEBALL CAMPION CAP 試合結果

「第2回 NEPAL BASEBALL CAMPION CAP」として、リーグ戦を9月10日～9月12日に行いました。結果は以下の通りです。

9月10日	第1回戦	ポカライエティーズ	VS	カリカサムライズ
		12	—	1
	第2回戦	シリシッダラムローズ	VS	バルバトラ黒王
		9	—	3
9月11日	第3回戦	カリカサムライズ	VS	バルバトラ黒王
		17	—	1
	第4回戦	ポカライエティーズ	VS	シリシッダラムローズ
		4	—	1
9月12日	第5回戦	ポカライエティーズ	VS	バルバトラ黒王
		6	—	2
	第6回戦	カリカサムライズ	VS	シリシッダラムローズ
		4	—	3

優勝	ポカライエティーズ	3勝0敗
準優勝	カリカサムライズ	2勝1敗
3位	シリシッダラムローズ	1勝2敗
4位	バルバトラ黒王	0勝3敗

*ポカライエティーズ=アマシン

カリカサムライズ=カリカ

シリシッダラムローズ=シリシッダ

バルバトラ黒王=バルバトラ

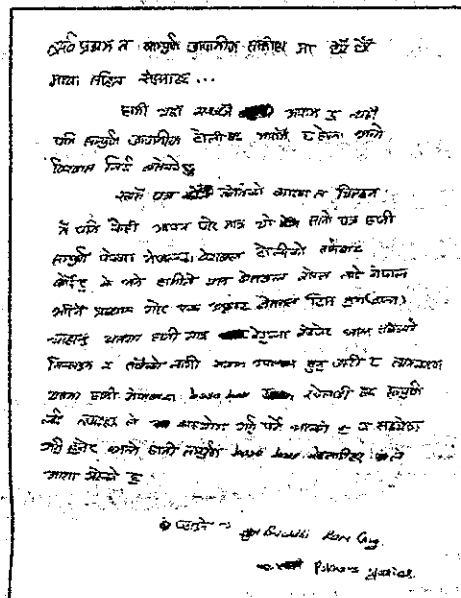
なお、優勝したポカライエティーズには ESODEC の方々からトロフィーと金メダル、準優勝したカリカサムライズには銀メダル、3位になったシリシッダラムローズには銅メダルが贈呈されました。



(報告者：杉谷有啓)

生徒からの手紙

ポカリエティーズ（アマ・シン）のブッディー・ラム君が、生徒を代表して日本のメンバーや協力者に手紙を書いてくれました。



左：ブッディー・ラム

（日本語訳）

はじめに、日本人の友人へ、たくさんの愛情と思い出を・・・。

私たちはここで元気になっています。日本にいるみなさんも元気であると信じています。

特に書くことはなかったのですが、私はネパールのポカラのベースボールチームの代表として手紙を書きます。

私たちは自分たちでネパールに野球を広めて、ネパールのナショナルチームになりたいです。

そのためには私たちだけが野球をしても広まらないので、みんなに野球を教え、みんなに道具をあげなければなりません。

だから、日本のみなさんはネパールの野球選手にずっと協力してくださっているし、これからも協力してくださることを期待しています。

（訳：マヌ・ヒラチャン）

（報告者：三上真里奈）

生徒たちの話（ネパールに野球を広めることについて）

4年間、野球を続けているアマ・シンセカンダリースクールの生徒たちと「ネパールに野球を広めていくこと」について、話をしました。

日本メンバー＝日 ネパールの生徒＝ネ 通訳さん＝通

日： あなたたちは野球において、もうすでに自分の足りないところが見えるくらいの経験があります。私たちが今まで伝えてきた野球を、次はあなたたちが次へとつなげていってください。

しかし、1つだけ気をつけてほしいことがあります。それは野球を広めるだけでなく、あなたたち自身も、今以上に上達することができることを忘れないでほしいということです。あなたたちは今までしてきたことを次につなげ、教えていくことで、もっと上達することができます。それはもう1度、野球を確認することになるからです。そして、一人一人がリーダーだと思い、みんなを引っ張っていってください。チームは敵ではないので、みんなで声を掛け合ってください。小さなチームはあなたたち（学校別）ですが、大きなチームは野球を一緒にしているみんなです。

日： 今、どんどん新しいメンバーが増えてきて、オールドメンバーはそのメンバーたちに教えていかなければなりません。あなたたちが4年かかってしてきたことを伝えていかないといけません。焦って教えるのではなく、ゆっくりと教えていってください。そして、広めていきたいという気持ちがあるのなら、プレイ中の失敗や反省を考えていかなければなりません。4年間してきたことなどを新メンバーに伝えるだけでなく、あなたたちも上手くなってください。

ここで野球をしているみんながFamilyです。ネパール人も日本人も仲間です。

ネ： もちろん伝えていきますが、日本人の協力も必要です。

ネ： 野球を続けることで将来があるかどうか心配です。何か希望があれば、広めていくことができます。

ネ： 4年間続けてきたけど、野球が何の役に立ったのかわからない。

日： 私は野球をして、自分が成長しました。例えば、あなたたちは野球をしていなかったら、他の学校の生徒たちと出会えていましたか？そして、あなたたちはお互いのことを認め合っていませんか？

今はあなたたちと同じように私たちも先が見えません。しかし、あなたたちが続けなければ、全然先が見えません。あなたたちが先を考えてください。そして、それを助けるために私たちがいます。

ネ： ポカラ以外にも広げていきたいです。以前に比べると、野球は広まっているし、委員会もできました。

通：すぐに実ることはありません。自立して、受け身ではいけない。

ネ：野球についてのことを書いて、新聞に投稿したのですがダメでした。それに、先生なども理解してくれません。

通：野球のルールブックを英語からネパール語に訳したのはあなたたちだということを ESODEC (ネパール NGO) に言って、名前を載せてもらおう。

ネ：年を重ねて、家族ができて、責任を負うことになった上で、野球を続けていくことは難しい。

日：日本に野球が伝わったときも 50~60 年かかり、そのときの日本も貧しい国でした。また、今まで来た日本メンバーは働きだし、ネパールに來れなくなっています。それはあなたたちと同じです。しかし、あなたたちの気持ちや來れなくなった日本メンバーの気持ちは受け継がれていきます。いつか年を老いて、ネパールに來たとき、街中でキャッチボールをしている姿が見たいです。どうなるかはわからないけど、一緒に夢を持って、がんばっていきましょう。

ネパールに來て、あなたたちに出会い、一緒に野球ができて、私たちはとても幸せです。

ネ：私たちもです。

日：いつかネパールで野球が広まれば、それがあなたたちの誇りになると思います。

生徒のインタビュー

質問内容

- ① 名前、年齢、ポジション ② 野球をはじめてどれくらいか ③ 家からアマ・シンのグラウンドまで何分かかかるか ④ 野球をしていない時は何をしているか ⑤ 日本メンバーと野球をして何を感じるか ⑥ 野球を広めるにはどうすればいいか ⑦ ネパール野球に足りないものは？ ⑧ 親は野球に対してどう思っているか ⑨ 自分たちだけで続けていくためにはどうすればいいか ⑩ 野球をはじめて自分の中で何が変わったか ⑪ 宝物は？ ⑫ 夢は？ ⑬ 日本の協力者に一言

アマ・シンセカンダリースクール



- ① ナウラチ、19歳、ショート ② 4年 ③ 2分 ④ 学校、家の手伝い ⑤ Interesting ⑥ ボカラや他の地域をまわって野球を教える、日本メンバーのように自分たちでチームをつくって教えに行く、そのためには日本の協力が必要 ⑦ ネパール野球の組織を自分たちで作りたい、けがをしたら救急箱も必要 ⑧ 反対はしていないが4年もやって何の役に立つのかと心配している、結果が出るのを待っている ⑨ できない、協力してほしい ⑩ 健康になった、野球が上手くなった ⑪ 両親 ⑫ 有名な野球選手 ⑬ ありがとうございます、これからも続けてください



- ① シャム、18歳、ショート ② 4年 ③ 30分 ④ 映画を見る、兄弟と遊ぶ、家の手伝い ⑤ とても幸せ ⑥ それぞれの学校で活動があればいい、ルールブックを自分たちで作りたい、校長に見せて子どもたちに知ってもらいゲームを見せてあげたい ⑦ 続けるためにヤックやQのようなコーチが必要 ⑧ 休みなさいと言う、いい選手になってほしい ⑨ 募金活動、道具をつくる材料を買う、自分たちが教える ⑩ 知識が増え、強くなって、日本人と交流もできた ⑪ 秘密 ⑫ 秘密 ⑬ チャンスをくれて感謝しています、ボカラに野球を広めるために頑張ります



- ① ブッディ、18歳、センター、ピッチャー ② 3年 ③ 20分、自転車だと5~6分 ④ 学校、家の手伝い ⑤ 楽しい ⑥ 日本チームと同じように自分たちでチームをつくってボカラや他の地域の学校に教えに行く ⑦ ネパール野球の組織を自分たちでつくりたい ⑧ 何か役に立つ結果を待っている、反対はしていない ⑨ できない、協力してほしい ⑩ 健康になった ⑪ 両親 ⑫ 有名な野球選手 ⑬ ありがとうございます、これからも続けてください



① ラジドウ、18歳、ピッチャー ② 4年 ③ 5分 ④ 仕事、トレーニング ⑤ 楽しい、幸せ ⑥ メディアを使う ⑦ わからない、満足している ⑧ 時々だめと言う、軍隊にいつてほしいと思っている、夕方は練習に来られない ⑨ 募金活動、道具をつくる材料を買う、自分たちが教える ⑩ とてもラッキー、勉強もすごくするようになった ⑪ 勉強 ⑫ 考え中 ⑬ チャンスをくれて感謝しています、ボカラに野球を広めるために頑張ります

カリカセカンダリースクール



① プルナ、20歳、ピッチャー、ファースト ② 2年 ③ 15分 ④ ごはんをつくる、音楽を聴く、ダンス、草に水やり、掃除 ⑤ もっと日本人から技術を学びたい ⑥ アマ・シンのグラウンドだけでやっても絶対に広まらない、色々なところで野球をしてたくさんの人に知ってもらわないといけない ⑦ 道具を大事にする、整備されたグラウンド ⑧ ネパールでは新しいスポーツなので賛成している、家族も喜んでいる ⑨ 色々な場所で野球をする ⑩ 早起きできるようになり健康になった、他にもあるが何が変わったかわからない ⑪ 特になし ⑫ 野球選手 ⑬ みなさんのおかげで野球を知ることができました、ありがとうございます



① ディペン、16歳、センター ② 2年 ③ 40~45分 ④ ミラーを使ってシャドー練習 ⑤ ネパールチームが勝てると思った、なぜなら注意深く集中してプレイしているから ⑥ 他の学校の生徒を教えに行く ⑦ 整備されたグラウンド、道具 ⑧ 賛成している、有名になることを期待している ⑨ できる、みんなで練習したりミーティングをしたりして自分たちでつくっていく ⑩ 始めた頃はミーハーな気持ちがあったが、今は教えられる立場になりたい ⑪ お母さん ⑫ 野球を続けて有名なプレーヤーになりたい ⑬ 私たちの支えになっていただいております、できるなら一度お会いしたいです



① モハン、18歳、サード ② 2年 ③ 15分 ④ 友達と遊んでいる、サッカー ⑤ とても楽しい ⑥ テレビで広める ⑦ グラウンド、自分のいいコンディション ⑧ とてもいいことだと思っている ⑨ やりたい練習をする ⑩ 忘れた ⑪ お母さん ⑫ プロ野球選手になっていい試合をしたい ⑬ 僕たちのために協力してくれたのおかげで野球ができています、お金や道具を集めてくれてありがとうございます



- ① チーズ、17歳、キャッチャー ② 2年 ③ 20分 ④ サッカー ⑤ 楽しい、うれしい、日本人が来たら気持ちが高まる ⑥ ポカラからカトマンズへこのメンバーが広めていく ⑦ 道具 ⑧ 応援してくれている ⑨ 新しい学校も増やしてみんなに教えて行く ⑩ わからない ⑪ 家族 ⑫ 野球を有名にする ⑬ 道具が不足しているからより多くの道具が欲しい

シリ・シッダセカンダリースクール



- ① ラザン、16歳、キャッチャー、ショート ② 2年 ③ 20分 ④ 勉強 ⑤ 日本人が来て教えてくれて、2年たつて教える側になった、教えるのも楽しい ⑥ 他校にももっと呼びかけて野球を教える ⑦ 練習、道具、グローブはつくれない ⑧ 野球は新しいスポーツなので広めたら楽しいと教えている ⑨ 全部の学校と協力していく ⑩ 友達ができた ⑪ 家族、野球道具 ⑫ プロ野球選手、日本語を話す ⑬ 私たちのために協力してくれているおかげで、ネパールで楽しく野球ができています



- ① ビジェ、15歳、セカンド ② 8ヶ月 ③ 20分 ④ 勉強 ⑤ お互いに楽しい時間を過ごしていると思う ⑥ 色々な学校に行つて野球を紹介する ⑦ スパイクなど野球用品 ⑧ 良いと思っている ⑨ みんなで協力して他の学校に広める ⑩ 日本人と仲良くなれて良かった ⑪ 家族と野球 ⑫ プロ野球選手 ⑬ ありがとうございます



- ① ルドウラ、18歳、センター ② 1年 ③ 自転車で30分 ④ バレーボール ⑤ とても親切で気分がよくなる ⑥ 色々なところに行つて野球やルール説明をする、アマ・シンだけでやっても広がらない、⑦ いいプレイを見せられる子が少ない、上手い子がもっといたらそれだけで野球に惹かれると思う ⑧ 朝夕何をしているの?と何回も聞かれる、説明しても野球というものを理解していない ⑨ いっぱい友達を増やし野球人口を増やす、野球に対して熱い子が必ず出てくるだろう、他校にも紹介する ⑩ 明るくなったような気がする ⑪ お金、勉強、スポーツ ⑫ プロ野球選手 ⑬ ありがとうございます、皆様もぜひネパールに来てください、道具支援これからもよろしくお願いします



- ① テルサン、16歳、ライト ② 8ヶ月 ③ 40分 ④ 勉強 ⑤ とても楽しい ⑥ 色々な学校に行つて紹介したらいいと思う ⑦ スパイク ⑧ 良い ⑨ ⑩ 朝早く起きて運動するようになり健康になった ⑪ 野球、家族 ⑫ 野球選手 ⑬ ありがとうございます

バルバトラセカンダリースクール



① ディペス、15歳、セカンド ② 2ヶ月 ③ 45分 ④ 勉強 ⑤ とても良い、楽しい ⑥ 色々な学校に行って広める ⑦ 服 ⑧ 何も言わない ⑨ 時間を決めて時間どおりにすればいいと思う ⑩ なし ⑪ 人生 ⑫ 素晴らしい野球選手 ⑬ ありがとうございます



① ロビン、15歳、ライト ② 2ヶ月 ③ 45分 ④ 勉強 ⑤すごい、僕たちのために丁寧に技術や試合を教えてくれる ⑥ 遠くても近くても学校間です ⑦ 練習 ⑧ 見に行きたい ⑨ オールドメンバーが新メンバーを教えて、遠い学校でも学校間です ⑩ ⑪ ⑫ いい野球選手 ⑬ ありがとう（日本語で）



① ブーバン、13歳、レフト ② 1ヶ月 ③ 45分 ④ サッカー ⑤ 楽しい ⑥ 色々な学校に行って広める ⑦ ユニフォーム ⑧ 何も言わない ⑨ ⑩ なし ⑪ 時間 ⑫ エンジニア ⑬ ダンニャバード



① プルナ、15歳、ライト ② 3~4ヶ月 ③ 30分、歩いて1時間 ④ ⑤ 楽しい ⑥ 色々な学校へ行って野球をする ⑦ 服、ズボンが破れるから ⑧ 何も言わない、家が遠いし勉強しなければならないので朝か夕方どちらかしか来られない ⑨ できる ⑩ 全く知らなかった野球を今は知っている ⑪ 学生生活 ⑫ ネパールで野球を広げること ⑬ ネパールのために協力してくれてありがとうございます



① スシル、15歳、サード ② 2ヶ月 ③ 45分 ④ 野球の写真を見たり色々なことを考える ⑤ とても幸せ、野球についてまだ理解できていない部分があるから勉強になる ⑥ 他の場所で野球をしたりして広げていく ⑦ より多くの指導者 ⑧ 応援してくれている ⑨ 自分たちで練習を頑張っていく ⑩ とてもいい人になったと思う ⑪ お母さん ⑫ 野球選手 ⑬ とても優しく親切に教えてくれているのでありがたいという気持ちでいっぱいです

園田健弥の活動報告

今年5月より現地に滞在している園田健弥の活動報告です。



ネパールには貧しい人が多く、食べ物がなくて、学校にもいけない子どもたちがたくさんいます。その中で野球に触れて、日本人と友達になれて、生徒は幸せだと思います。日本メンバーも、目を輝かせて野球している生徒と一緒によ野球ができて幸せだと思います。そして、僕はそれをずっと見守っているのもっともっと幸せだと思います。

そして、4年目にして、ようやく芽がでてきました。ここから、太陽と水が必要です。僕はこれをあげるためにネパールにいます。目標はオリンピックです。どでかいです。この活動は俺の1年間も含め、生徒にどでかい夢を持たすことができます。プロ野球選手になったような感じです。

生徒の笑顔を大切にこれからも頑張りたいと思います。

この4ヶ月で感じたのは、本当に言葉、文化、国境は関係ありません。人には心があります。ネパールの生徒にも心があります。

心で結ばれます。僕はネパール語もわからずに、野球をしました。僕は野球が好きで生徒も野球が好きです。だから、国境を超えて、心と心で結び合うことができました。もし、言葉がわかっていたら、ここまで感じられなかったかも知れません。言葉がわかっていたら、もっと違う何かを感じていたのかもしれない。

今から、もっともっと色々なものを感じて、生徒に伝えて、日本メンバーにも伝えていきたいと思います。そして、僕は野球と生徒を愛しまくっているので僕の1年間は大丈夫です。へこむ要素がありません。

しかし、ここまで来るのに色々なことを見てきました。ネパール人は日本に比べると、すぐにすねる、すぐに怒る、すぐにあきらめる、そして、楽しかったら、笑い、怒られたら悲しい顔をする。単純です。すごく。だから、僕も裸になれました。そうすると、本当に生徒と一緒によ笑顔で野球をすることができ、あー！！心と心がつながるとはこういうことだったんだと思いました。

今ネパール野球は大きな転換期に入りました。生徒には野球の楽しさを伝えることができました。

けど、僕はもっともっと野球が好きです。こんなものじゃないです。僕はこれを1番に伝えたいと思います。シャムもナウラチも野球の楽しさはまだまだわかるはずです。僕は幸せです。僕の道は最高です。頑張ります。

ご協力者の皆様へ

皆様のご協力本当にありがとうございます。本当に皆様の気持ちは生徒に伝わっています。僕の活動費も生徒が野球できるのも参加者だけの力ではありません。ここまで大きく上進してきたネパール野球交流は全員の力が合わさってのものだと思います。

まだまだ、問題はあります。グラウンドの危険性、道具、フェンスがない、コミッティーなど、しかし、僕と協力者の皆様と参加者と生徒がいる限り、野球からでる笑顔は確実に広まり、問題も少しずつ解決していけます。

なぜなら、人間には心があるから、温かい心があるから、それは野球が好きだということに繋がっています。もっと、元を見ると、生徒は日本メンバーを日本メンバーは生徒を愛しているからです。

すべて愛です。愛は地球を救う。

僕は生徒から愛をたくさんもらいます、だから、一人でも元気になれます。特に生徒が野球を真剣にしている姿を見るのが大好きです。一人で不安なこともしんどいことも、嫌なことも、ネパール人の嫌なところも全て忘れます。

ご協力者の皆様本当にありがとうございます。これからもご協力宜しくお願いします

今までの活動に関わった日本メンバーへ

みんな、本当にありがとう。人間は一人で生きていけないとつくづく感じます。俺はプールにも地元にもいっぱい友達がいる、頼りにできて、甘えられて、幸せだなと思います。

ここからは俺のすべてをぶつけて、頑張ります。

愛は地球を救う！！！！！！

参加者インタビュー

小林洋平

夢：阪神優勝

リーダーとしてプレッシャーも感じましたが、終わってみるとさすがしさがいっぱいです。私自身の将来に良い刺激を与えてくれました。この活動に関わっている全ての人に感謝しています。ネパールで野球活動をしていることを幸せに思います。

山本亜矢子

夢：カッコいい大人になること

半年ぶりに訪れ、生徒の自立した姿に驚きました。私は今回、メンバーや生徒達から優しさや暖かさなどのたくさんの愛をもらいました。その愛が私の3週間の支えでした。この3週間は人の愛を感じ、自分自身を見つめなおす良い機会になりました。

佐原啓太

夢：世界を編む

今回、参加するのも4回目になり、いつのまにかこの活動に慣れていて、いろいろ見えなくなっていた。だから今回は誰よりボールを先に追い、全力で走り、投げ、打っておもいきり笑った。こんなに単純で簡単なことがとても難しく、それを出来たときはとても楽しくて、人として素直に生きることが本当に難しく、本当に楽しいという事に気づきました。いつまでも変わらぬ笑顔が生まれる事を願っています。

三上真里奈

夢：全ての国を自分の目で見る

今まで子供だと思っていた生徒が大きくなっていました。ネパール野球はやっと階段を一段上ったような気がします。ここまで私達をつれてきてくれた生徒達にありがとうという気持ちでいっぱいです。いつかこの報告書を読んでもくれたみなさんが彼らに出会えることを祈っています。

巖一季

夢：みんなとずっと一緒にいること。

3回目にしてやっと「異文化間協働」を垣間見た気がします。けっして私達だけで進めている活動じゃないということを確認できました。生徒は野球との出会いで大きく成長したように思います。私自身、活動を通して出会った全てはかけがえのない財産になりました。

三浦昌広

夢：エジプトで夢を見る

こうして野球を通じてさまざまな事、人に出会い私は野球に対して感謝でいっぱいです。そして、子供達にそれぞれの野球が見つかることを願っています。いつかまた、あの笑顔あふれるでこぼこのグラウンドで大きな声をだして野球と彼らと向かい合いたいです。

三上大輔

夢：大きな人間になること

研修で学んだのは、物事を見ることについての広い視野の重要性です。その国、人々、時々の状況においていえることです。そんな意味で大きな成長になったと思います。

稲富智佳子

夢：日本語教師

この活動に参加していろんな人に出会って、いろんな経験をして、自分が成長できるきっかけをもらったと思う。みんなの笑顔を見て、自分もいっぱい笑った。これからもこの活動を通して、こういう幸せが日本にもネパールにもいっぱい広がればいいと思う。

新宅絵美子

夢：クリエイター

子供達は自分が思っていたよりずっと大人でした。これからは子供達と共に考える活動になると思います。

杉谷有啓

夢：峠最速

結論から言うとまだ全力だしきれていませんが、とても充実していたと思います。子供達も自分の将来を心配するほどに野球を好きでいてくれることを肌で感じました。次は全力を出したいです。

谷昌樹

夢：一生懸命生きる

ネパールにいた期間ほど、素直に一生懸命、自然体の自分を出し切った経験はなかったように思う。いろんな人に出会い、話をし、本当に大切なものが何であるかわかりました。全てが宝物になりました。今、神様の宝石でできた島にもう一度行きたい気持ちでいっぱいです。

糸井仰

夢：米国永住

子供達に教えることよりも、子供達から教えられることの方が多かったように思う。子供達が野球を本当に愛していることを身をもって感じました。

室家健吾

夢：ビッグになること

ネパール野球は誰もが輝く場所、僕にとってネパール野球の半分近くが悩んで過ごしました。ネパールで野球を教えるという響きだけできてしまった。何ができるか。悩んだ結果、何もできない。なら楽しもう。そして、できることを見つけた。声を出そう、何か明るくなった。これが僕のネパール野球です。正直もう一度いくのが怖いです。けれども、必ずもう一度行きます。みんなにもう一度会いたいから。

園田健弥

夢：社長になること

ネパールに野球を広げる土台作りまで来ました。僕はその手伝いで1年間野球を見守ります。言葉、文化、環境関係ないです。みんな同じ人間です。みんな野球が好きです。だからネパール野球は広まります。これからも協力お願いします。皆様の協力は確実に生徒に届いています。

会計報告

今回の活動に伴う収支報告をさせていただきます。

収入		支出	
前回繰越金	233,333	園田健弥 派遣費	400,000
ご協力者による寄付金	278,726	第7回交流活動費	60,211
街頭募金 (H14.8.4)	52,382	現地使用野球道具費	31,000
街頭募金 (H14.8.10)	22,419	交際費・雑費	13,980
学内募金 (プール学院にて)	35,662		
預金利息	115	次回繰越金	117,446
計	622,637	計	622,637

たくさんの方々から、活動費及び道具の寄付をして頂きました。

ご協力頂いた皆様は、以下の通りです。

アスレチック BASEBALL CLUB 様 アラン・J・ベセット様 有村一夫様 和泉サークルズ様
 和泉少年野球軟式野球協会様 井上義祐様 井上治子様 いぶきのボールパークズ様 岩井都蔵
 様 岩坂正雄様 岩崎力様 植野雄司様 内海章雄様 太田垣洋子様 大屋純子様 小川ゆり子
 様 沖上スポーツ様 オリックスブルーウェーブ様 梶村義行様 加羽千代美様 亀井慶二様
 荻野正美様 川崎好重様 川口陽子様 木川田一郎様 北山泰久様 木下典様 草竹和信様 黒
 田廣美様 小阪荘園子供会様 小嶋智弘様 小西康元様 小林哲也様 権瞳様 西道実様 幸ジ
 ュニアファイターズ様 坂本和博様 柴田あぐに様 ゼット株式会社様 高谷耕作様 多田圭吾
 様 鶴野麻里子様 D.M.ヒラチャン様 寺川克様 中川弘一様 中村真由美様 中山雄次・昌子
 様 南松ファイターズ様 ネットワーク HITO 様 西尾宣明様 西川節行様 西村嘉昭様 西本
 匡克様 橋本守・真理子様 朴聖雨様 林暁美様 藤井久仁子様 藤倉寿美子様 堀池ちづこ様
 本田明様 松田浩志様 L・Dマッセルホワイト様 三島文子様 御手洗佐与子様 箕浦史郎様
 官川多美恵・絢江様 村瀬晴彦様 村瀬寿代様 室山日皓之助様 森定玲子様 森美幸様 弥佐
 康志様 安増武子様 山崎美恵子様 山本みどり様 湯浅俊昭様 UCC 様 吉田等様 吉田義
 男様 米田歩様

街頭募金にご協力くださった方々 学内募金にご協力くださった方々 プール学院教職員の方々
 プール学院同窓会の方々 ミズパ会の方々

(50 音順)

誠にありがとうございました。

第7回野球交流活動で現地に持参したものは以下の通りです。

グローブ紐 70 本 体操着数着 ドロースー一個 救急セット 1 箱

(報告者: 村田佳奈美)

今後の予定

・第8回ネパール野球交流活動

期間：2003年2月19日～3月12日（3週間）

場所：ネパール ポカラ市 アマ・シンセカンダリースクール

各校の目標

アマ・シン : 自分たちで他の生徒に教えられる位になってもらい、園田健弥の帰国後も、自分たちで活動が続けていけるようになってもらう。

カリカ、シリッシンダ : 2校とも、より技術の向上を目指してもらい、少しでも他校の生徒に教えられるようになってもらう。

バルバトラ : 基礎的な練習を主にしてもらう。また、細かいルールも覚えてもらう。

・現地派遣員継続予定

現派遣員、園田健弥が来年の5月に帰国する予定ですが、その後新たな派遣員を派遣する予定はまだありません。しかし、研修旅行としての野球交流は今まで通りに続けていく予定です。

これらの活動、また今後の活動に伴う資金や道具が不足しております。
皆様の暖かいご協力をお願い申し上げます。

活動資金

UFJ 銀行 船場支店 普通口座 3984573

ネパール野球交流活動基金

野球道具

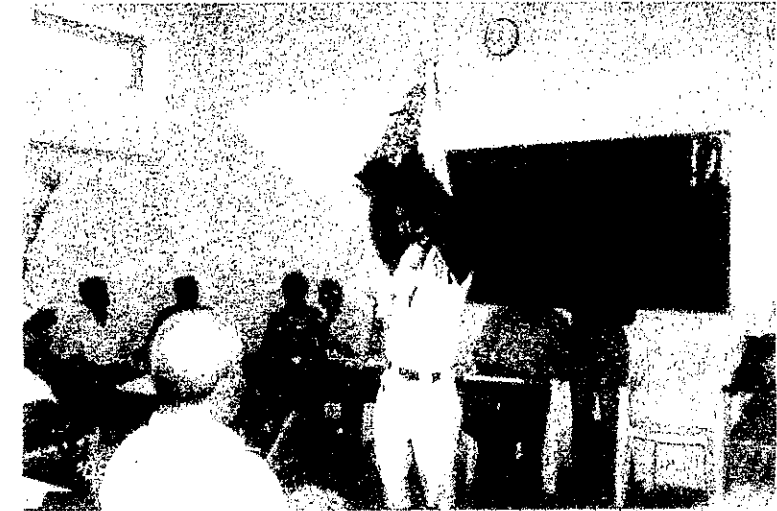
大阪府堺市横塚台 4-5-1 TEL ; 072 - 292 - 7201

プール学院大学 異文化間協働センター ネパール野球交流活動グループ

(報告者：三上大輔)

ネパール野球写真集





連 絡 先

住 所：大阪府堺市横塚台 4-5-1
プール学院大学 異文化間協働センター
ネパール野球交流活動グループ

TEL : 072 - 292 - 7201

ホームページ : <http://www.occn.zaq.ne.jp/nepalbasaball>.

ヒマラヤの麓で白球を追う笑顔！！

～募金ご協力のお願い～

私たちは 1999 年 9 月からネパールに野球を紹介し始め、野球を通して現地の子供たち（中・高生）と触れ合い、日本人とネパール人の相互理解を深めるという活動を行っています。ネパール第 2 の都市ポカラで始めたこの活動も丸 5 年の月日が流れ、8000メートル級の高嶺が連なるヒマラヤ山脈の麓、楽しい笑顔を増やしています。私たちは年に 1、2 回グループで出かけ野球交流をしたり、現地派遣員を送ったりして、野球の魅力を現地の人たちに伝えています。その結果、「野球がしたい」「野球を僕にも教えて」といった声が多く聞かれるようになりました。このような声が私たちにとって最大の励みになり、お互いが同じ目線になって活動を進めていくことを第一に考え、いつの日かネパール全土にキャッチボールの光景が見られることを夢見ています。私たちは野球から生まれる笑顔がある限り、この活動を続けていきたいと願っています。

今年の 4 月から、メンバーの三浦昌広君（23 歳）がネパールに滞在し、現地で野球道具を試作するなど、活動を進めています。今年度も 8 月 29 日（日）～9 月 19 日（日）に第 10 回目となる現地での活動を予定しています。しかし、メンバーのほとんどが学生であるため活動資金が大変不足しており、運営が苦しい状況です。また野球道具（グローブ、バット、ボール、ベース、ユニフォーム）も不足しております。そこで、活動の主旨をご理解いただいて、献金、献品をお願い致しております。

皆様からのご協力お待ちしております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



ご連絡・お問い合わせ プール学院大学 異文化間協働センター
ネパール野球交流活動グループ

TEL : 072-292-7201

ホームページ(<http://www.occn.zaq.ne.jp/nepalbaseball/>)

